

日時：平成23年11月12日(土)・13日(日) (2日間)

報告件名：福島県建築士会 青年委員会 第28回青年の集い

場所：1日目 郡山ビューホテルアネックス (福島県郡山市中町 10-10)

2日目 応急仮設住宅(郡山市緑ヶ丘東7丁目・船引町船引第二運動場)

参加者：北海道建築士会 針ヶ谷・浅沼・川原・菊地・小町・金谷・三嶋・亀田・原・清水・秋川・斎藤・宮本 (13名)

内容：11月12日 13:30~17:30 第28回青年の集い開催

18:30~21:00 交流会

11月13日 09:30~11:00 仮設住宅見学

11:00~17:00 福島県・宮城県被災状況の視察

17:00~18:00 せんだいメディアテーク見学

平成23年11月12・13日の2日間、福島で行われる青年の集いに参加する為に、北海道の青年建築士から13名が参加してきました。今年は東日本大震災により福島県も甚大な被害に逢い、また全国大会が中止になりました。そこでこの困難を克服する為に、全国の青年建築士が一堂に会し、現在までの諸問題や活動状況を現地から報告して頂き、これからの福島県を共に考えることを目的として集いが開催されました。



仙台空港

■仙台空港に到着

11月12日(土)朝 7:10 千歳空港に集合、新千歳空港を 7:50 に出発して 9:00 に仙台空港に到着しました。空港でまず驚いたのが津波到達高さ 3.02mの位置が丸柱に表示していることでした。津波の様子はテレビの映像で見えていましたが、実際現地で見ると想像以上に高く感じられ、これでは自動車などは簡単に流されたはずだと感じました。

現在はこの表示以外は震災の傷跡は無く何もなかったように感じますが、完全復旧は9月25日ということで、震災から6カ月間という長い復旧の時間がかかったことを考えると、復旧工事は大変だっただろうと思いました。

■郡山市内

仙台空港から目的地の福島県郡山市まではレンタカーで移動、高速を使いながら約2時間程度で到着、その後すぐにホテルにチェックインしました。道中は震災の傷跡をまったく感じなかったです。

郡山市は人口33万人の大きな市で福島原発から60kmほど離れています。ホテルから移動していた時に東京電力の「賠償相談窓口」などの看板があり、今起きている現実を肌で感じることになります。



郡山市内商店街アーケード



賠償相談窓口



比内地鶏サスケ



極上親子丼

■会場付近で昼食

開催まで時間があったのでグループに分かれて昼食タイムです。私達札幌チームは裏路地にあった比内地鶏のサスケというお店に入店しました。男性陣は極上親子丼定食を注文、卵と鶏肉が絶妙に絡み合っていて旨い！値段も高い！また横目で見ていた小町さんの定食はデザート付きで差を感じながら、お店を後にしました。

このお店は明治から残る築120年の蔵を改装して店舗にしたということで、良いお店でした。

<1日目>

■青年の集い開催

いよいよ目的の集いが13:30より開催されました。今回の集いのタイトルが「大震災における建築士の役割」になり、私達他県の青年は福島県の集いに参加する形になっています。150名以上の方々に参加され他県では長野の17名が最も多く、次いで北海道の13名です。

福島の青年の方々は大震災後初めて会う方も多ということで、仕事や生活も含めて御苦労された事と思います。

まず主催者挨拶それから3名の来賓祝辞と移りましたが、それぞれ思いが強く感じられ、復興の為にこれから何をしなければいけないのか、など熱く語って幕が開きました。



主催者挨拶

■東日本大震災報告会

まず東日本大震災報告を6名の方々が、次に復興住宅事例を連合会の副会長が、最後に意見交換まで4時間の内容の濃いプログラムだと感じていました。しかし実際は皆さん話が長い事が原因なのか、打ち合わせ不足なのか分かりませんが、報告会が長く意見交換は時間が無く出来なかったのが現実でした。たぶん震災の影響と伝えたいことが多かったのが原因ではないでしょうか・・・私達北海道組はなぜか一番前の席から2番目ということで、皆さん緊張しながら聞き入っていました。



報告会

1) 「応急危険度判定活動について」 福島県土木部南会津建設事務所 建築住宅部長 村井弘道氏

応急危険度判定の依頼があったのが地震翌日の3月12日、福島県は震度6強から5弱の揺れがあり、判定士自身が被災されている大変な状況の中、活動内容を決めて対応にあたりました。他県と違うのは放射能の影響があり、活動を中止しながら調査を行った為3月26日に判定活動を終了しました。派遣場所が中島村・泉崎村・鏡石町・郡山市、派遣人員は田島・山口支部30名、行政職員11名の合計41名です。

今回の応急危険度判定活動では、日頃より行政との連携が強かったので指揮系統の統率が取れていたこと、19年から実物の建築物を用いた判定模擬訓練を行っていたことで、円滑に活動を実施されていた点は重要であると感じました。また今後の調査・集計の効率を上げる為、iPadを使った被災建物調査ツールを開発していく話も興味深かったです。

2) 「仮設住宅の建設について」 相馬支部 玉川敬氏

南相馬市は原発から20km圏内・30km圏内と圏外の3種類の地域が含まれており、人口が2万3千人ほどの市です。現在は一部地域で避難指定が解除されて、多くの市民が避難先から戻ってきています。仮設住宅は同市で2330戸が建設され、400戸が計画中です。

仮設住宅の建設については、在来工法で行われている工事の写真など参考に御説明頂きました。放射能の影響により土地改良のお話や、1カ月間で施工を完了する為に施工手順を変更するなど、現場でいろいろと工夫されているそうです。また図面などを参考に平面計画や構造のお話しをして頂きました。



南相馬市



仮設住宅種類



建築風景



3) 「応急仮設住宅の現況について」 富岡町役場 災害対策本部住宅支援班 班長 阿久津守雄氏

富岡町は原発から 10km 圏内・20km 圏内の 2 種類の地域が含まれており、人口 1 万 6 千人の町です。ほとんどが原発に依存している町で、津波の時は 5.7m ある防波堤を超えないと思っていた所、それを簡単に超えて来るほどの津波が襲ってきました。被害状況は警戒区域内にある為被害調査を実施出来ない状況です。応急仮設住宅は現在でも警戒区域の為、町外の郡山市・三春町・大玉村・いわき市に 2467 人が入居し、県内外の借り上げ住宅に 10,720 人が入居しています。

応急仮設住宅については土地の問題点を挙げられて、便利な場所は無く使われない不便な場所しかないのが現状だそうです。また仮設住宅の仕様に差が住民からは苦情が多くあり、本当は同じ仕様の物を提供したいと思っているとのことでした。

4) 「罹災証明調査業務について」 いわき支部 大森仁氏

罹災証明調査をして感じたことは、一部半壊と半壊の支援の差が大きすぎる点、判定基準が亀裂・脱落が基本なので仕上げ材の仕様で大きく違ってくるのは、問題があると感じたようです。また被災している建物に、応急危険度判定や地震保険鑑定など調査に来るので、「また来たのか」と勘違いされる方が多く居たことを考えると、統一出来ることか検討が必要ではないのかと言われました。

そして被災された建物に調査にいくと、修繕してくれる業者知らない？まだ住む事が出来るのか？金銭的なこと？など相談される方が多くいて、これからの建築士の役割としては技術的な相談はもちろんですが、精神的・金銭的な相談にも乗ってあげられるスキルが必要だと感じたそうです。

5) 「地域防災と建築士の活動について」 双葉支部 鹿股巨氏



双葉町は福島第一原子力発電所が立地している場所で人口 7 千人の町です。鹿股さんは地元の消防団に入っており、震災後家族と一緒に避難することが出来ずに 5 日間地域活動をされてから、家族と再会しました。一番つらかったことは電話が繋がらないことだったそうです。

建築士会の仲間は今日初めて会う方が多く、この光が見えない状況で建築士としての活動をしている仲間を誇りに思うとお話をされていました。

また左記写真の「なみえ焼きそば」を作った人は双葉支部のメンバーで、先日の第 6 回「B-1 グランプリ」では 4 位になったそうです。

6) 「復興住宅について」 福島県土木部 次長 佐々木孝男氏



福島県

福島県は人口 200 万人、今回の東日本大震災では死傷者・行方不明者 2,000 人、20 万棟を超える建築物が被災しました。仮設住宅として 3 万 5 千戸を供給目標として、応急仮設住宅 16,000 戸、公営住宅 1,000 戸、民間賃貸住宅借り上げ 18,000 戸です。仮設住宅は地元で資材・設計・工務店と共に進めたい考えです。

「福島県復興ビジョン」復旧・復興の取り組みとして下記 3 点挙げています。

- ・ 応急仮設住宅等に関する環境改善研究会の開催
- ・ 公共建築物等に係る復旧・復興技術連絡会の開催
- ・ 復興住宅供給促進のための支援

次のステップに進む為にも、検証作業が大事であり、行政と民間団体の連携が今後も必要だと熱くお話し頂きました。

7) 「復興住宅事例」 社団法人日本建築士会連合会 副会長 三井所清典氏

新潟県中越地震により長岡市山古志地域では、747 棟の住宅のうち約 44% の 328 棟が全壊し、無被害の住宅は 0 棟という甚大な被害に見舞われました。自力で住宅の再建ができることを目的に委員会を設け、雪に強く中山間地の生活に配慮して、コストを安く抑える住宅のモデル「中山間地型復興住宅」を開発したそうです。2 階は未完成にしてコストを安くする、そして常に地元で大工さんの働く環境があることも必要であり、復興には地元の大工さんや住民みんなで話し合うことが一番大切だと語っておられました。

最後に今回の東日本大震災における木造仮設住宅の取り組みをご紹介頂きました。

<2日目>

■ 応急仮設住宅見学（郡山市緑ヶ丘東七丁目）

翌朝の 9:00 に会場だったホテル前に集合して、そこから車・バスなどで移動して現地に到着しました。参加者は 50 人程度居ましたので、仮設住宅に入居されている方々に申し訳ない思いを感じながらの見学です。

住宅は 6 戸で構成されたプレハブ型の長屋になり全部で 170 戸ありました。中央には集会場、道路入口付近には駐車場があり、ゴミ置き場もスチール製のラックでした。案内して頂いた方からは、住宅の前は行かないことなどの説明を受けてから見学しましたが、人影は無いのですが洗濯物の状況からは入居されているのは分かりました。やはりプレハブの無機質な色やアスファルトそして人影が無いことで少し寂しい感じがします。

特に感じたのは新興住宅地が近くにあり、駐車場を挟んで仮設住宅が密集していて、その差がハッキリ分かるこの立地は入居者の心境を考えると複雑な思いでした。



案内地図

駐車場

仮設住宅

■ 応急仮設住宅見学（船引第二運動場）

次に向かったのは先ほど見学した仮設住宅から、車で 20 分ほど山間部を走った山側の平地です。平地が少ない為一部駐車場が住宅地とは別の場所にあり、そこに車を置いて仮設住宅に向かいました。

住宅は 4 戸～6 戸で構成された在来型の長屋になり、全部で 100 戸ありました。集会場が駐車場側に、ゴミ置き場は木軸フレームの茶系塩ビ波板で全体の統一感があり、受水槽なども確認出来ました。住宅の入口が通路を挟んで向かい合う形で配列されており、スロープを付けてバリアフリー対応の長屋も見受けられました。外壁が木質系の材料なので周辺の景観と合っています。ここに先ほどと同じプレハブが立てられた場合は、違和感を覚えたのではないのでしょうか。

～雑談したおばあちゃんとの話～

集会場の隣のベンチで座っていたお年寄りの方とお話が出来ました。ここに住んでいる方は、原発の影響で避難地域に指定された村の住民がまとまって移住しており、そしてほとんどの方が農家出身で身体を動かすことが慣れている為、ここの生活は何もすることが無いので運動不足になると言われました。車が無い方の買い物はタクシーが格安の値段で来てくれるそうです。

仮設住宅については、「とても暖かく前住んでいた家より良い」「親戚が見舞いに来てくれると綺麗なので皆さん驚いて帰って行く」と笑顔でお話をしていたのが印象的でした。

一番驚いたのが大勢で見学していたのは迷惑だったと思っていましたが、「こんな大勢の方々が来てくれてありがとう」と言われた時でした。皆さん人と話すことが何よりも安らぎになるようで、住民同士や外部から来た方が気楽に交流を図れる仕掛け作りも重要だと改めて感じる事が出来ました。



案内地図

入居者

仮設住宅



国道 288 号線



警戒区域入口

■警戒区域入口まで

最後に見学した船引町は原発から 38km 位置にありましたが、警戒区域まで車を走らせることにしました。双葉町に向かう国道 288 号線を進み原発から 22km 地点の同市都路地区が通行止めになっていました。警察の検問があり、普通とは違う状況が今でも続いている事を知りました。

道中車の往来は少なく外に出ている方も居なかったようでした。また目に付いたのが葬儀の案内が多かったです。



波打浜公園

■宮城県視察

警戒区域から船引町に引き返し、昼食にかっぱ寿司を食べてから、震災が甚大だった宮城県石巻方面に車を走らせました。郡山市から東北自動車道で向かっていましたが時間的に石巻は無理と判断、宮城県松島町に変更して松島にある波打浜公園で休憩、その後海沿いのルートで塩釜市・多賀城市・仙台市へ車を走らせ、最後に住宅被災があった宮城野区・若林区に到着して車を降りて視察しました

仙台市では死者・行方不明者 730 名・建物の全壊～半壊 10 万棟、浸水被害が 8100 世帯になります。

その中でも東部沿岸地域だったこの地区の被害が大きく、震度は6強で津波の高さは4～5m 程度だったのが調査で分かっています。



廃車置き場

建物は残っているが被害が大きく人が住んでいない家や基礎だけ残っている状況が多く見られました。基礎だけ残っているのはおそらく危険の為に取り壊された後だと思われます。当時の動画では水が付き倒壊した家が多くありましたが、現在はガレキなどありませんでした。

中には新しい住宅などあり、住宅ローンなど大変だと思われる住宅、柱が無く片持ちで支えられている危険な住宅などがあり、これから残った家はどうか考えました。この見学会は自然の驚異に驚く貴重な見学会でした。



壊れた車



新しい住宅



片持ちの倉庫



残った住宅



基礎だけ残る



住宅地道路

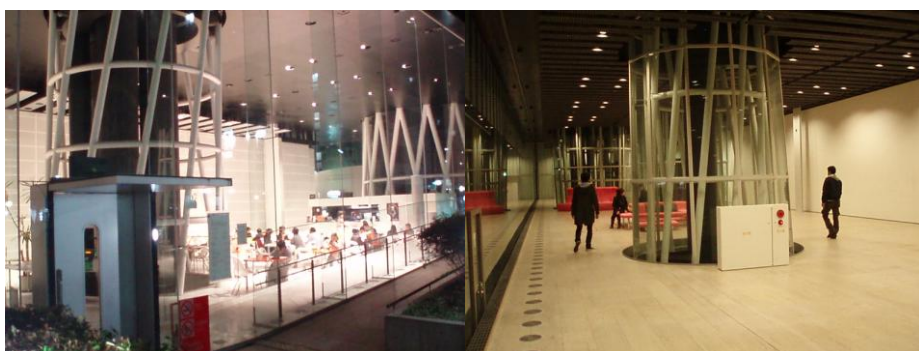


■せんだいメディアテーク見学

仙台市の被災状況見学後、17:00 にせんだいメディアテークに到着しました。この建物は仙台市民図書館が老朽化した為その代替と、要望の強かった文化活動の振興に供する建物として、平成 12 年に竣工しました。伊東豊雄の代表作であり、6 枚の床と、揺れる海草のような形状の 13 本のチューブと呼ばれる鉄骨独立シャフトのみの単純な構造によって、地下 2 階、地上 7 階の空間のすべてが作られています。

見学した時は外が暗くなっていましたので、内部からの光がとても綺麗に感じました。また全面ガラスになっている為、構造体の支柱がとても力強く感じられ、外部のケヤキ並木と一体感がありました。

内部は柱・梁が無い圧倒的な大きさに驚き、什器類のカラーの大胆さやディテールに至るまでデザインが行き届いていることは素晴らしかったです。何か別次元の建物を見ているようで、久しぶりに建築をやっている良かったと思える見学会をしたと思いました。



1F ホール



3F 図書館

■仙台にて夕食

メディアテーク見学後に、国分町にある牛タン焼専門店「司」で夕食でした。さすが東北最大の歓楽街と言うことで、飲食店が多数あり、怪しげな店も多数発見しました。

司では牛タン定食を皆さん注文されていました。肉厚があり柔らかく美味しかったです。ここから 2 次会と行きたい所ですが、飛行機の時間がありとても残念でした。



牛タン定食



国分町



札幌支部参加者

■仙台空港 最後に

夕食後再び仙台空港に到着、20:40 発 21:55 着の飛行機で千歳空港に到着し、無事に終了致しました。

今回特に感じたことは、建築士が地域社会で果たす役割は大きく、技術的なことは当然として、被災された住民のいろいろな悩み事などにも相談に乗ってあげる事は、非常に重要であると感じました。また建築のデザインは見た目だけではなく、人々の安心にも繋げることが出来る事を、仮設住宅の見学会で学びました。

震災ではいろいろなボランティア活動はありますが、私達技術者でなければ出来ないことがあります。この教訓を学び私達の地域に当てはめて考える必要があると強く感じました。

今回は大変貴重な体験が出来て、企画して頂いた福島県建築士会及び関係者の方々にとっても感謝したいと思います。ありがとうございました。